

BMB2015 大会運営についての アンケート 集計結果

ポジション別:ポスドク等非常勤研究者

回答者数:139名

質問1. BMB2015に参加されましたか

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	参加した	118	84.9%						
回答2	参加しなかった	21	15.1%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問2. ポジションについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	学部学生	0	0.0%						
回答2	大学院生	0	0.0%						
回答3	ポスドク等非常勤研究者	139	100.0%						
回答4	企業研究者	0	0.0%						
回答5	大学・研究所等の常勤研究者	0	0.0%						
回答6	その他	0	0.0%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問3. 年齢について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	19歳以下	0	0.0%						
回答2	20-24歳	0	0.0%						
回答3	25-29歳	17	12.2%						
回答4	30-34歳	47	33.8%						
回答5	35-39歳	43	30.9%						
回答6	40-44歳	16	11.5%						
回答7	45-49歳	6	4.3%						
回答8	50-54歳	5	3.6%						
回答9	55-59歳	2	1.4%						
回答10	60-64歳	0	0.0%						
回答11	65-69歳	2	1.4%						
回答12	70歳以上	1	0.7%						
回答13	回答しない	0	0.0%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4. 所属する学会について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	日本分子生物学会	99	71.2%						
回答2	日本生化学会	55	39.6%						
回答3	日本細胞生物学会	6	4.3%						
回答4	日本発生生物学会	7	5.0%						
回答5	日本癌学会	9	6.5%						
回答6	日本神経科学学会	11	7.9%						
回答7	日本植物生理学会	9	6.5%						
回答8	日本免疫学会	6	4.3%						
回答9	日本遺伝学会	3	2.2%						
回答10	日本生物物理学会	3	2.2%						
回答11	その他	39	28.1%						
	合計	247							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	今回の形式・掲載内容を支持する	86	61.9%						
回答2	冊子版はもっと簡略化したダイジェスト版でよい	14	10.1%						
回答3	以前のA4判サイズのほうが見やすい	8	5.8%						
回答4	冊子印刷版は必要ない	20	14.4%						
回答5	特になし	10	7.2%						
回答6	その他	15	10.8%						
	合計	153							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問6. ITシステムについて <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」は使いやすかった	88	63.3%						
回答2	基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」が使いにくかった	12	8.6%						
回答3	WEBシステムとアプリで「マイルスケジュール」が同期できて便利だった	38	27.3%						
回答4	「マイルスケジュール」が使いにくかった	12	8.6%						
回答5	「会場ナビ機能」が役に立った	19	13.7%						
回答6	「会場ナビ機能」は役に立たなかった	10	7.2%						
回答7	アプリについてはオフライン利用のみで十分であると思う	10	7.2%						
回答8	「SNS機能(参加者⇄発表者)」が役に立った	5	3.6%						
回答9	ITシステム全般について評価していない	3	2.2%						
回答10	特になし	27	19.4%						
回答11	その他	25	18.0%						
	合計	249							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	WEBシステム	31	22.3%						
回答2	アプリ	51	36.7%						
回答3	両方を利用した	23	16.5%						
回答4	いずれも使用していない	33	23.7%						
回答5	その他	1	0.7%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	テーマは適切である	84	60.4%						
回答2	テーマが偏っている	11	7.9%						
回答3	海外からのシンポジストの数は適切であった	25	18.0%						
回答4	海外からのシンポジストはもっと増やしたほうがよい	34	24.5%						
回答5	特になし	52	37.4%						
回答6	その他	3	2.2%						
	合計	209							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問9. ワークショップについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	テーマ・セッション数ともに適切である	73	52.5%						
回答2	テーマ・セッション数ともによくない	9	6.5%						
回答3	特になし	50	36.0%						
回答4	その他	7	5.0%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問10. 一般演題について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	プログラム編成・日程振り分けはよかった	39	28.1%						
回答2	プログラム編成・日程振り分けに不満が残った	31	22.3%						
回答3	ポスターセッションの時間(2時間)はちょうどよい長さだ	43	30.9%						
回答4	ポスターセッションの時間はもっと長いほうがよい	26	18.7%						
回答5	ポスターセッションの時間はもっと短かくてよい	10	7.2%						
回答6	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムはよかった	36	25.9%						
回答7	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムに不満が残った	6	4.3%						
回答8	特になし	28	20.1%						
回答9	その他	20	14.4%						
	合計	239							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	創業シンポジウム	20	14.4%						
回答2	市民公開講座	11	7.9%						
回答3	日本の科学を考える「ガチ議論」	28	20.1%						
回答4	BMB2015 研究倫理フォーラム	7	5.0%						
回答5	海外若手研究者招聘企画(旅費補助)	32	23.0%						
回答6	特別企画全般について評価していない	7	5.0%						
回答7	特になし	68	48.9%						
回答8	その他	6	4.3%						
	合計	179							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	よかった	56	40.3%						
回答2	よくなかった	1	0.7%						
回答3	参加していない	42	30.2%						
回答4	特になし	33	23.7%						
回答5	要望・その他	7	5.0%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問13. 「製薬・創薬面談ブース」について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	よかった	5	3.6%						
回答2	よくなかった	0	0.0%						
回答3	利用していない	113	81.3%						
回答4	特になし	19	13.7%						
回答5	その他	2	1.4%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問14. 本大会の規模について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	適当な規模である	63	45.3%						
回答2	大きすぎる	62	44.6%						
回答3	その他	14	10.1%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問15. 本年の開催形式(合同大会)について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	よかった	77	55.4%						
回答2	よくなかった	9	6.5%						
回答3	どちらでもない	47	33.8%						
回答4	その他	6	4.3%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	分子生物学会と生化学会の合同開催がよい	66	47.5%						
回答2	それぞれ単独開催がよい	38	27.3%						
回答3	他学会との合同開催も検討してほしい	30	21.6%						
回答4	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか	5	3.6%						
回答5	特になし	21	15.1%						
回答6	その他	8	5.8%						
	合計	168							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問17. 会員懇親会の開催について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	会員懇親会は特には必要ではない	90	64.7%						
回答2	可能であれば開催してほしい	10	7.2%						
回答3	特になし	34	24.5%						
回答4	その他	5	3.6%						
	合計	139							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本生物工学会	2
日本糖質学会	2
日本薬学会	2
小規模なもの	1
生物物理学会、蛋白質化学会	1
糖尿病学会、糖尿病合併症学会	1
日本RNA学会	1
日本RNA学会、酵母遺伝学フォーラム	1
日本ウイルス学会	1
日本エピジェネティクス研究会	1
日本ゲノム微生物学会	1
日本バイオインフォマティクス学会	1
日本バイオインフォマティクス学会、日本癌学会、日本化学会、CBI学会、日本遺伝子診療学会	1
日本育種学会	1
日本化学会、日本質量分析学会、脂質生化学会、Am. Soc. for Mass Spectrom.	1
日本植物学会	1
日本神経化学会	1
日本神経科学学会	1
日本人類遺伝学会	1
日本水産学会 油化学会	1
日本生物教育学会	1
日本動物学会	1
日本動物学会、日本顕微鏡学会、日本原生生物学会、日本寄生虫学会	1
日本毒性学会 日本研究皮膚科学会 日本蚕糸学会	1
日本農芸化学会、日本結晶学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、日本植物細胞分子生物学会	1
日本農芸化学会、日本薬物動態学会、日本薬学会	1
日本肥満学会	1
日本薬理学会	1
日本臨床分子形態学会、日本病態プロテアーゼ学会	1
農芸化学会	1
農芸化学会、栄養食糧学会	1
米国人類遺伝学会	1

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	会場に持ち込まなかった。
※	プログラムと会場案内のみの小冊子もとても見やすく良かった。
※	A4で薄い冊子のほうがビジネスバックに入れやすい
※	メモ用紙のページもほしい。
※	アブストラクト版もあるといい。当日興味をもって聞きに行く場合もあるので。
※	冊子印刷物は必要無い。さらに、数年前からの分子生物学会大会の冊子については、およそ学術的な話をする場にふさわしく無いと感じる。あまりにも若い世代(学部・大学院生)に媚びる(意識した)冊子には非常に違和感と嫌悪感を感じる。我々はデザイナーを育てるわけではない、科学者を育てているのです。若い世代に媚びる必要があるほど研究者を志す人が少ないとは決して思いません。
※	プログラム集冊子が届かなかった
※	今の形式もとても良いと思います。会場にA5のさらに半分のサイズの簡易版があったのがとても良かったです。今後もお願いします!
※	サイズはA5版で良い。口頭発表とポスター発表を2冊に分けた方がいい。ポスターのプログラム冊子は有料で希望者のみでもいい。
※	特に冊子体は必要でないと思うが、オンラインシステムがいずれ閉じてしまって学会での発表がなかったかのようにされる現在、冊子体を保存して今回の学会の記録とするしかないと思われる。
※	・冊子版は、持ち歩くには重たいと判断して、持っていきませんでした ・会場で配布していた小さい冊子がとても便利でした ・会場で配布していた小さい冊子をプログラムと一緒に送っていただくとか、あるいは小さい冊子で配っていた内容の部分だけプログラムから取り外し可能な形になっていたら、効率よく会場を回れたと思います
※	紙ベースの情報源は何かしら必要。学会の規模が大きすぎるために冊子が肥大化することが問題。どうせ使い捨てなのだから装丁がカラーのツルツルである必要性を全く感じない。造りは安くてよいから、日単位で分割するなど持運びおよび閲覧の便を重視されてはいかがか。
※	電子媒体で見られるのが充実していれば、冊子の品質が悪くても構わない。一方、過去の記録を閲覧に苦労するので冊子がないと困ることがたまにある。
※	学会数そのものを減らし、学会を集約してほしい。
※	冊子の大きさは任せるが、細かい字が見づらいので、大きな字にしてくれると助かる

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	いいね機能は不要では？
※	プログラム(全体のスケジュール)が見にくかった。
※	マイスケジュールからその日の要旨をPDF化できるのがよかった。ただ会場にもWifiを飛ばして欲しかった。
※	日付+キーワードの複数選択が出来るといい
※	会期前も、会期中も使いませんでした。次回もし参照したい場合は、PCからアクセスします。
※	アップデートの意味がよくわからず、アプリを起動するときに更新されるのが鬱陶しかった
※	Androidアプリの応答が遅いように感じました。
※	プログラム検索と発表者検索が別なのは使いにくかった。
※	会場であまく動かないことがあった
※	数年前にiPhone を大会表紙にした分子生物学会にないほど、アプリは非常に使いにくかった。アメリカ神経科学会などのアプリを参考にし、よりよいアプリの開発につなげて頂きたい。
※	若干の慣れが必要だが、非常につかいやすかった。ただ、メモ機能は中途半端で、要旨を読みながら書けなかったので使えなかった。要旨に直接書き込めたり、マーカーを入れたりすることが出来れば良かった。
※	マイスケジュールが、タイムテーブル方式で表示されると見やすかったと思う
※	会場内がfree-wifiではなかったのでオンライン利用はほとんどできなかった。タイムスケジュール閲覧中にクローズしてしまうバグ？が頻繁に起きた。
※	アプリのマイスケジュールが非常に重くなってしまっておりイライラした。
※	アップデートが頻繁すぎる。プログラム検索結果と会場地図をリンクさせて欲しい。
※	androidでよく落ちた。ポスター会場でネットが繋がらず、参加者の検索ができなかった。
※	参加者・発表者検索から探した演題をマイスケジュールに登録できないのは不便。
※	そもそもITシステムと言っているのに無線LANがほとんど通じず、かつ自分のポケットwi-fiを使うな、というのは矛盾しかない。人の検索と発表の検索が別でしょっちゅう間違える。冊子とオンラインでポスターの場所がずれていて混乱した。オンラインに講演の場所が書いておらず不便だった。アプリから自分にいいね！した人の情報が見れなかった。スケジュールも時系列表示(グラフ状)にしてくれるとよかった。
※	利用しなかった
※	Wifiが会場のどこでも使えると思いこんでいた、アプリをダウンロードしなかった。そのためにマイスケジュールにアクセスしづらく、学会中は不便だった。
※	とても使いやすいアプリでした。
※	そもそもアプリをインストールできなかった。理由は不明。
※	・人名での演題検索結果から要旨の画面に移動できないのが不便でした・動作環境はiPhone 4S のiOS 9.1 でしたが、動作が遅いと感じる場面がとて多く感じられました・同期の途中で応答なくなる症状があったため、会期中は同期するのを諦めました・「マイスケジュール」へ「あなたの関連演題」の内容を加えている(余分な負荷が発生する要因)事例が多くみられたので、「興味ある演題」などの名称のほうがよかったと思います
※	IT の過渡期に積極的に取り入れた意欲を評価する。しかしながらスマホ不保持者のため中身の良し悪しについて評価する立場にない。
※	その場で利用しやすいのは楽しいが、終わった後も使えるものであるほうがのちに便利

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて（その他）

回答者 番号	記述
※	アプリ(スマホ)では画面が小さくて一覧が見難い。PCでWEBを見るにはWi-Fi環境が必要。結果、冊子で見る事が多く、冊子の場合にはメモ書きも自由に可能であるため、ITシステムも必要ではあるが、今回のような冊子(A5は良かった)も必須であると思う。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者 番号	テーマが偏っている記述
※	そもそも数が少ないので偏るのは仕方ない
※	興味のあるものが一つもなかった。動物、植物、微生物など、どの分野の人でも関係がある(興味の持てる)発表内容が一つでもあるべきかと思う。
※	特定の先生とつながりを持つ人ばかり。
※	お金持ちはデータそこそこでも優遇されているのか!?

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	プレナリーとパイオニアーズの時間がかぶるのはよろしくない。
※	興味のある話題がなかったので参加していない
※	大会全体の共通言語を全て「英語」にすべきである。日本語だけではやはり大学院生の発表練習になってしまう。

質問9. ワークショップについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	今回は聴衆の数と会場の大きさのバランスが取れていないところがあり、会場に入れないセッションもいくつかあった。その意味では、セッション数を増やしても良いのかもしれない。
※	セッション数が多く、見つらなかった。人気のあるセッションに人が集まりすぎて、参加できないことが何度かあった。
※	テーマに偏りがある、会場選びが適切でない(広い会場で参加者が少ない、狭い会場で参加者が入りきらない)。
※	同時並行してワークショップがある割に、同じグループの同じような演題があって偏りを感じた。
※	セッション数が多過ぎた感じがありました。
※	似たジャンルのものが同じ時間に被っていて、聞きたいものが聞けなかった。
※	多すぎ、かつ会場とテーマの設営が不適切 一部の人間の自己満足も見え隠れするが

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	同一分野のシンポジウムと一般口頭演題を同じ時間帯に行うのは避けてほしい。
※	午前中にもポスターブレイクがあると良かった
※	ポスターセッションの終わる時間(18時45分)をもう少し早い時間にしてほしい。
※	1日の午前中に神経発生のシンポジウム、ワークショップ、一般口頭発表が重なり、ほとんどの講演に参加できなく残念であった。同じ分野を1日にまとめるのはよいと思うが、同時間に開催されると参加できない講演が増えるので時間をずらしてほしい。
※	一部、最終日昼に行うセッションはかなり人の入りが少なく、残念であった。また、会場のサイズも適切とは思えなかった。ポスターを3日目にやり、発表が4日目にある人がいたが、議論を効果的にするためには逆のほうが良いと思う。
※	ポスターが貼り替え制になっていましたが、全日程通して貼りっぱなしにする方がよいと思います。聴講者が時間内に訪問できなかった演題でも、聴講者が後日訪問して眺めることはできますし、演者がもし気づけば、議論することもできます。聴講者、演者の両者にとって利点があると思います。また、一般口頭発表に採択された演題の中で、口頭発表の時には既にポスターが終わっている演題がありましたが、これはなるべく避けた方がよいのではと思います。口頭発表で時間がなくて質問できなかった内容を、ポスターでじっくり議論できるようにすると、より白熱した議論ができると思います。
※	ポスターセッションの開始時間が遅すぎると思いました。
※	会場の大きさと人数が合わず、途中からだの中に入れなかった。
※	こちらも、全て英語にすべきである。日本語だけで討論できても海外では全くはがたたないし、日本だけで終わる研究は数十年前に終わっている。若者に媚び、大会を運営するのではなく、若者を厳しく育てる大会になるよう願っている。
※	話す時間がもう少し長いとよい。
※	ポスターが多すぎるので、口頭発表者のポスターは不要。ワークショップ発表者が多くて、一般演題は少なく裏に隠れたようなプログラム編成だった。
※	ポスターセッションの時間を早めにしてほしい。遠方からの参加者にも配慮をお願いいたします。
※	3日目ポスター発表で4日目口頭発表とか意味わからない
※	4日目のお昼の口頭発表の固め打ちは良くなかった。合同大会だったせいもありますが、全体的にてんこ盛りすぎな感じがした。
※	一般口頭発表が多すぎる気がする
※	最終日にポスターが無いと、大半の人は最終日午後になる前に帰ってしまい、最終日午後のセッションが閑古鳥のところが多く、もったいなかった。
※	・連番のポスター発表を行いました、隣り合ってほしい演題の間に通路がはさまってしまい、連番の意味が薄れてしまった、ということがあったので、次回からはそのようなことがないように対応していただけると嬉しいです
※	ポスター発表者を増やすことで学会参加費を回収する必要性は理解できるが、それにしても全く形になっておらず見る者に何の益ももたらさない発表が多過ぎる。石コロの発表の山のために発表時間が短縮され(ポスター発表1時間では全く議論できない)、ひとつの発表あたりに参加者が割ける時間が短縮される。学士修士の学生の記念参加は厳しく排除し、字義通りの選考を経た上での採択を強く望む。現実的な線では、同一研究室からの類似テーマの演題は、ひとつのポスターにまとめ代表者に発表させることなどが考えられる。
※	発表演題が多すぎてそもそも全部を見切れない。
※	日数が短い(詰め込みすぎ)

質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	研究問題について取り上げるのはよいが、臨床研究不正や甲状腺がん多発など、より大きな社会問題について触れないのが奇妙である
※	創業シンポジウムは、バランスの良い人選で中身が濃く良かった。研究倫理フォーラムは、オーガナイザーがフロアからの発言を(特に知名度の低い参加者につき)制限したが、脇道にそれる発言もあり仕方がなかった。STAPのみ取り上げて他の大御所の論文不正(△△△△研、□□□等)は全く触れず偏っていた。専門分野が遠い〇〇〇氏を選んだのは、高い見識をお持ちとはいえ最適な人選だったのか、パネリストの質が残念だった。日本は科学議論で発展途上国だと痛感した。一般国民に向けた情報発信をどのように行えるか、問題意識を大隅氏やオーガナイザーから伺えたのは良かった。
※	ガチ議論に期待しておりましたが、会場の意見が拾われることがほとんどなく、壇上の(特に司会の)方々のちぐはぐな議論に終始しており、極めて残念なものでした。トピック、多様な立場にある分子生物学会の会員、政府側のパネリストなど、面白い議論が出来る素材が十分に揃っているにもかかわらず、司会進行で台無しにしているように感じました。最終的には、ガチ議論の成果(学会としての共通見解)を決めようと動きも阻害され、結局は愚痴を言い合う場になっていたのではないのでしょうか。
※	日本の科学を考える「ガチ議論」。ガチとはなにか。まずはそこからである。何度も記述しているが、大学院生だけに焦点を当てた大会であれば何もあんなに立派な会場を借りる必要はない。ポスター発表中にjazzの演奏などもつてのほかである。時代の変化に対応する運営は非常に重要な課題であると思うが、間違った変化の仕方、偏った変化のしかたでは将来的に学会自体の運営を難しくすると思われる。
※	「ガチ議論」など、名称が、不真面目な印象を受ける企画がありました。
※	「日本の科学を考える」のは良い企画ですが、『ガチ議論』というネーミングは不真面目で、本当に科学者は本気で考えているのか疑わしく思います。企画名でふざけるのはやめた方が良いです。

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	企業展示会は一カ所にまとめてほしい。バイオテクノロジーセミナーは、事前にネットで予約するシステムとなったこともあり、内容目当てではなく食事目当てで参加する人がさらに増えたのではないと思う。本当に内容を聞きたい人が参加できるシステムにしてほしい。
※	企業ブースがポスター会場のそれぞれに分散していて行きにくかった。企業自体にも意欲的に売り込む勢いがなかった。
※	多すぎてまわりきれなかったが新しい情報を多く手に入れる事ができた
※	一つの会場にまとめて欲しい。
※	一部の金をかけた企業ブースは非常に不愉快であった。以前は担当者が丁寧に機器やキットの説明をしてくれたが、近年の分子生物学会に参加する担当者は敬語が喋れない連中が多く困惑する。さらに、販促品目当ての学生を意識してかハテナポップを並べてみたりと縁日の様であった。これは学会の企業展示ブースにはふさわしくない。
※	事前登録がなかなか繋がらなくて苦慮した。当日は楽であった。
※	なぜNBRPの内容が検索できなかったのか？

質問13. 「製薬・創薬面談ブース」について（その他）

回答者 番号	その他記述
※	良かったが、もっと多くのブースがあるとさらによかった。
※	将来的にあれば利用したいと感じた。

質問14. 本大会の規模について（その他）

回答者番号	その他記述
※	神戸では大きすぎる
※	規模はいいかもしれないが、交通の便が悪い気がする
※	毎回だと大きすぎるが、数年に一度ならよい。
※	会場によっては部屋が狭すぎたので、一定以上の大きさの部屋を確保して欲しい。
※	やや大きすぎる気もするが、varietyがあるところが良い点でもあるので、小さくすることで、そこが損なわれるのであれば、現状規模でもよいと思う。
※	参加者は多いほどよいとは思いますが、同時進行のセッションの数はもう少し少なくてもよいかもしれません。
※	ワークショップ、一般口頭、ポスターを審査してもっと減らしてもよいのではないかと思います。特に、ワークショップと一般口頭は一緒にしても良い気がします。
※	大学院の博士課程以上からの参加にすれば十分であると思う。観光気分で来ている学部生や修士の学生が多すぎる。
※	大きすぎるけれど、他の専門毎の学会とは違って分生あるいは生化学会はこの感じというイメージです。しかし、会場が別建物で分かれすぎていて移動に時間がとられる点がもう少し考慮して欲しい。
※	大規模な学会と小グループの学会を併用しています。本学会は大きな規模の学会として、大変有意義な学会であると思います。
※	参加しなかったのでわかりません。
※	参加していないのでよく分からない
※	行ってないからわからない……

質問15. 本年の開催形式(合同大会)について (その他)

回答者 番号	その他記述
※	毎回は困る。
※	結局、生化学よりの分野の発表は殆ど聞かなかった。
※	昨年度は分子生物学会年会に参加しました。単体でも規模が大きく、今回との違いがあまり感じられませんでした。運営側の事情はわかりませんが、参加者としては毎回合同形式でも問題ない(ほとんど変わらない)ように感じます。
※	分野横断的に研究をみることができるのは良いが、大きすぎる。連続開催のほうがよいのでは。
※	規模が大きすぎるので、参加しづらかった。
※	参加しなかったのではありません。

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者 番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	アメリカのExperimental Biologyのように一つの大会で多くのことが学べるよう、分子生物学会と生化学会のみではなく、薬理学会や、生理学会も含め、より大きな大会にしていきたい。
※	日本内分泌学会、日本比較内分泌学会
※	一度、生理学会、肥満学会、神経科学会などと合同で学会を運営してもらいたい。彼らの実直でまじめな大会運営を見習って頂きたい。昔のちゃんとした学術討論ができる分子生物学会に戻って頂きたい。
※	分子生物学会と遺伝学会。基礎研究に重点をおいた研究会がよい。
※	細胞生物学会

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	それぞれの大会の時期を6ヶ月程度空けて参加を増やす。単独開催でそれぞれの会員の相互参加を可能にする。
※	合同と単独隔年で良い。日本の基礎生物学者が一同に会するこの学会は貴重な学会だ。
※	海外からの参加者を増やすため、海外からの参加者は学会員でなくてよいなど特別な配慮が必要のように思う。
※	数年に一度で良い。
※	単独開催の年と、合同開催の年が混じる形で、今のままが良いです。
※	生化学会は医療や創薬など、応用に近い内容も多くて一部は分子生物学会とは相容れないと思われる。
※	これまでの様にたまに合同大会したら良いと思います。
※	領域分けにこだわりすぎて分かりにくい。Webや冊子を見なくてもだいたい分かるようにするだけの方がみなが色々なことを勉強できる

質問17. 会員懇親会の開催について（その他）

回答者 番号	その他記述
※	せつかくの参加者同士の交流の機会なので、大規模だと場所と予算に限りがあり難しいと思います。そこで例えば、各ワークショップごとに小じんまりとでもいいので、予算をつけて小規模な懇親会を複数開催することで、分野ごとのコミュニティ活性化につながるのではないかと。
※	懇親会を開催した方が交流も生まれメリットが大きいのと思いますが、今回のような参加人数の場合は全体の懇親会を実現させるのは困難に思えます。テーマ毎に分けるなど、分子生物学会・生化学会ならではの工夫が必要だと思えます。
※	規模が大きいのので、懇親会はなくても良いと思います。
※	会員懇親会がどのようなものか知らない。
※	色々なところにイスやつくえがあって気軽に話せる場所があればよい

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者 番号	意見記述
※	ランチョンセミナーの事前予約は先着順ではなく抽選制(第3希望までの)にするべき。
※	ランチョンのシステムが不満。周りに店もないので、昼食に困った。
※	ランチョンセミナーのシステムの改善が必要だと思う。ネットでの配布自体はいいと思うが、一定期間解放して抽選にすべきだと思う。その際にアンケートも記入してもらえば当日の手間が省けるのでは。当日券は朝に配布すべき。朝のセッションを聴かずに当日券目当てに並ぶ人が大勢いて大変見苦しい光景だった。(勿論本人たちの問題ではあるが)学会としてセッションを聴かない人が増えるようなシステムを奨励すべきではない。
※	ランチョンセミナーもう少し参加しやすくしてほしいです。事前予約は、先着順ではなく、せめて抽選など。
※	ランチョンセミナーの事前予約を導入したことは良かったが、開始早々からアクセス集中で繋がらなく、ようやくつながっても次の画面に移る際に繋がらなくなるなど、結局、予約が出来なかった。アクセスが集中することは予想できることなので、改善してほしい。 当日の整理券もかなり早くから行列になっており、残り数がどこかで分かるなどのシステムがあると良いと思います(予算的なことから難しいのかもしれませんが、結局は、お弁当の総数が少なすぎます。まわりに食事が出来る場所も限られていました)。
※	全会場でWiFiが使えるようにして欲しかった。
※	ランチョンセミナーの事前予約システム及び当日の整理券配布法に非常に不満がある。当日に企業ブースを見て、興味を持ったところがあっても、ランチョンセミナーに参加できなかった。以前の方法で特に問題がなかったと思う。元に戻してほしい。
※	もうすでに意見は出ていると思うが、ランチョンセミナーのweb予約システムは今回失敗だったと思う。また、当日券の配布がプレナリーレクチャー・パイオニアズレクチャーの時間帯であったことも問題だと思う。プレナリーレクチャー・パイオニアズレクチャーを聞かずにランチョンセミナーのチケットのために午前の講演終了前から長蛇の列ができており、なんのために学会に来ているのかと疑問に思った。当日券は例年通り、朝に配布し、他の講演時間に被らないよう運営委員側で配慮すべきと思う。せっかく招待したゲストに失礼なプログラムであり、今後はこういったことがないようにしてほしい。
※	ワークショップの裏で同テーマの一般演題のトークが有り、演者もどちらも聞きたい場合などがありました。難しいかも知れませんが、ワークショップの内容と近い一般演題は日程がかぶらないように調節が必要かと思います。
※	アプリを使ったプログラム検索などスムーズに行え、会場移動も楽でした。合同大会ということで演題数も会場も多く、運営事務局の方はご苦労なされたと思います。お疲れさまでした。
※	ランチョンセミナーの事前予約は忘れてしまうので、大会当日に整理券を配布するなどしても良いと思う。今回の規模では混雑してしまい難しいかもしれないが。
※	・「Genes to Cell」表紙の掛け軸が、とても綺麗だった。普段はオンラインで論文をみるだけなので、あのように凝ったデザインとは知らなかった。・生化学会と分子生物学会の合同年会は、発表数が多く一度の参加でより多くの情報が得られるので有意義だ。・アプリのお陰でポスターを効率よく見る事ができた。演題数が多いので、Late breaking abstractの方は殆ど見なかった。
※	4F特設会場は小さすぎて人があふれ、「立ち見」すらできなかったです。
※	口頭発表の会場が狭すぎて、入れないが多かった。会場をもっと広くしてほしい。
※	シンポジウムやワークショップの発表時間が押してしまう場合が多く、次のシンポジウムの初めの講演が聞けないことが多かった。ので、間の休憩時間をもう少し長めに入れた方が良いかも。初日の開始時間が早く、遠方から来る場合に間に合わないで、少し遅くしてほしい。
※	Q17に関して、分生規模の学会ならば、人数が多すぎて、懇親会場内で興味深かったスピーカーに会える確率が非常に低いからだ。となればただの同窓会になるので、懇親会は必要ない。ポスター+口頭発表は負担も大きいですが、議論もよくできるので非常に良い。しかし、ポスターのほうを後日やるほうがより深く議論できる。そのために、プレナリーレクチャーやパイオニアズレクチャー、魅力的なシンポジウム、ワークショップを最終日に固めていくのがいいと思う。
※	午前中のセッションの開始時間をいろいろとずらした方が交通の混雑が緩和できるのではないかと思います。
※	若手の賞の枠を40歳未満まで広げてほしい。
※	会場内のWiFiが繋がりにくかった
※	三宮までの交通(ポートレール)にももう少し工夫があると良かったのではないかと思います。例えば会場までのシャトルバスを運行する等。
※	やはり会場が分かれているのは大変だと感じた。ポスター会場さえ4会場もあると回るのも億劫になった。
※	会場が点在していて、聞きたいセッションが時間的に隣接している場合は、移動が大変だった。単独開催で密に日数を短くしたほうがよいと思った。合同開催は、数年に1度にして海外のシンポジストを増やしたらよいと思った。開催に当たり、子供預かりサービスや屋台がでていたのはとてもよかったと思う。
※	あまりにも最近の分子生物学会は学部や修士の学生に媚びる(彼らが参加したくなる)大会運営に嫌悪感を感じる。分子生物学会は2000年以降、学部や修士の学生の発表のデビュー戦になってしまっている。日本を代表する分子生物学会にはもっとハイクラスな討論や最近のトピックスについて意見を交換する場が必要である。若い世代だけでは限界もあるし、シニアの誰かが若い世代をしっかりと導き、日本の科学技術向上の手助けを必要があると感じる。さらに、企業ブースでは派手な展示や催しを禁止し、「遊びにくる学会」ではなく「勉強する、研究者としてステップアップする学会」にする必要があると感じる。
※	会場内どこでもWiFiが使えるととてもよい。
※	ポスター討論の時間と総会の時間が被ったことに非常に大きな不満(憤り)を感じている。特定非営利活動促進法の表決権の平等に照らしても問題のある日程だったと思う。
※	極端に狭い会場があった(神戸国際会議場18会場など)。最終日はそこでお弁当を配られる中でのセッションだったので、かなり質問しにくい環境だった。
※	大会規模は適当と思うが、ポスター会場と企業ブースは1カ所に集約できるような会場を用意した方が良いと思う。
※	ぜひ来年も参加したいです。
※	全会場でfree-wifiが使用可能にするべき。魅力的なフォーラムが複数あったが、開催時間が夕食と重なり参加が難しい。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者 番号	意見記述
※	ランチョンセミナーの券の配布は、考えてほしい。よく行われている、朝配布する形式がいいように思います。お腹がすくため、チケットはほしいが、今回の配布方法では、チケットを入手するため、聞きたい発表をあきらめている人もかなりいたようです。また、昼食食べるため、ランチョンをあきらめた人もかなりいました。朝早くから来た人から選べるのが、公平に思いました。
※	以前、学会時は会員間を「ちゃん」付けで呼び合おうなどというメールが会長から送られてきて、会員に対してこの件についての謝罪がないなど、生化学会という組織自体が、大会を軽視しているように思えます。
※	規模が大きすぎたので、やむ得ないと思いますが、発表をききたい演題をセレクションした場合、会場間を移動するのが、非常に大変でした。会場間の移動のために、断念したものもありました。会場間の距離があまりにも広すぎるので、参加者人数を増やすことを目的にするよりも(合同開催をするのではなくて)、単独開催の方が良いと感じました。会場間の移動についても、検討の余地が、大いにあると、強く感じました。(会場の規模、参加人数によるので、やむ得ない事情とは思いますが、やはり、かなり不便です。)
※	ポストク問題など若手研究者の雇用状況が、さらに悪化していると感じます。学会として、企業への就職を大々的にサポートするような企画があると良いと思います(研究者向けの企業説明会とか、研究者が企業で働くことについての講演とか)。学会の場がアカデミアと企業の架け橋になっていく時代だと思えます。
※	口頭発表の会場を広くしてほしい。立ち見が多すぎた
※	お世話様でした。次期課題は、研究職を一生ものと考えてよいか、そのための戦略は、をお願いします。
※	参加人数が多すぎて、講演会場の座席を確保するのが困難だった。立ち見では集中できないし、人がいっぱいでも聞きたかった講演を諦めたものもいくつもある。会場が広すぎて、次のセッションに移動する間に会場が満員になってしまったり、その点は不満が残った。
※	ランチョンセミナーの予約システムで、セミナー選択画面の後は継続してサーバーに接続するようにしてほしい。何度も元に戻りまた初めからとなり、非常に使いにくかった。
※	会場が広く同じ時間帯に複数の会場に興味のあるものがあるのがあっても聞きにくいことが難しい。午前と午後間の時間(11:30-14:00)が長く、時間を持て余した。
※	ランチョンセミナーの予約がひどいなんてもんじゃなかった。事前に予約できるのは評価するが、早起きしてランチョンのチケットをとる労力は報われるべきであると思う。また、事後にチケットを郵送するのは資金の無駄では。PDFにしてもってこい or 所属等を各企業に提供して企業がメールを印刷してもってこい、などのことはできるかと思う。また、今回、アメリカンコミック的なイラストを使っていたが著作権的に大丈夫なのか。著作権料の支払いに学会参加費があてられているならば非常に無駄である。今回、みないろいろな意見を寄せると思うが、ぜひ内容を公開していただきたい。(できれば回答も)
※	ワークショップなどの一部の発表では、その発表内容はすでに論文になっているものばかりであり、またプレゼンテーション自体のレベルが低く、手を抜いているようにしか見えなかった。CellやNatureのエディターにでも来てもらえれば、未発表のデータをもっと真面目にトークするのではないか？一部のシニアな研究者(教授クラス)は、会場に来ている若い人への手本になっていないと感じられた。もっと緊張感のある学会にして欲しい。
※	・このページのタイトルが「日本分子生物学会・年会アンケート」となっているのは、生化学会のみにも所属している方への配慮が欠けているように感じられるので、BMB2015に修正されたほうがよいと思います(私自身は、両方の学会に所属しているため、別段不快とは思いませんが、生化学会から届いたメールに記載されていたリンクからアンケートのページを表示したので、違和感をおぼえました)・インターネット経由で、その場で聴衆にアンケートをとるタイプのシンポジウムなのに、wi-fi が設置されていない部屋で実施される、という、部屋割りの不備がみられたので、来年以降は改善を期待します
※	生化学会会長が、3月末に学会員にメールを送り、学会で「ちゃん付け」をするよう呼びかけていました。少し学会に対して軽く見ているように思います。結局エイプリルフールのつもりだったようですが、メールでの説明や謝罪連絡もなく、結局よく分かりません。平素より、学会に対して、真摯に取り組む姿勢を示していただきたいと願います。